



定価 1部140円(本体133円+共200円)
 予約購読料 1年分 5,000円
 紙代のみ 3,500円
 振替 00140-9-145275
 本紙を購読ご希望の方は、前金を
 そえて、お近くのキリスト教書店
 へお申し込み下さい。
 教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 **日本基督教団**
 169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
 FAX03(3207)3918
 発行人 内藤留幸
 編集主筆 竹澤知代志
 印刷所 株式会社きかんし

キリストこそ我が救い

日本伝道150周年を迎えて 藤掛順一 (伝道150年記念行事準備委員会書記)

教会は何によってこそ一致するのか

2009年は、プロテスタント日本伝道150年の記念の年です。「教団新報」4671号の記事にあるように、教団においてもいくつかの記念集会和出版が計画されています。今私たちが「日本伝道150年」を記念することの意味を考えたと思います。

しかし本年を「伝道150年」とすることへの疑義も提起されています。1846年に沖繩にベッテルハイムが渡来し、聖書の琉球語への翻訳などを通して伝道活動をした、その年こそ日本伝道開始の年とするべきではないか、という主張です。ベッテルハイムはイギリス海軍琉球伝道協会から派遣された医療宣教師で、イギリス国教会(聖公会)の信徒でした。私たちは日本伝道の歴史における

記念集会和案内するポスターも作成、準備は着々と

この人の働きを忘れてはならないでしょう。しかし日本基督教団はその「成立の沿革」において、「わが国における福音主義のキリスト教は、1859(安政6)年に渡来した外国宣教師の宣教にその端を発し」と述べています。そして過去、日本の教会はこの1859

年を起点として「開教50年」「宣教百年」を記念してきました。ベッテルハイムのお膝元である日本聖公会も、彼の沖繩における伝道道を日本伝道の「前史」と位置づけ、本年伝道開始150年を記念してカンタベリ大主教の来日を予定しています。これらのことからして、日本基督教団が本百年記念の年に立って「伝道150年」を記念する。初め、海外宣教師によ

するは、ごく自然なことだと言えるのです。さて年配の方々の中には、50年前の「宣教百年」の記念行事を覚えているという方もおられるでしょう。1959年(昭和34年)11月1日より、「宣教百年記念週間」として様々な式典や集会が行われました。一日の教会学校生徒大会には5000人が参加し、3日には東京都体育館でNCCの「宣教百年記念式典」に8000人、4日の「第四回日本基督教団宣教大会」にも7500人が参加しました。そこで採択された「宣言」にはこのように語られています。「われらは宣教百年記念の年に立って、い

いま、世界は同時不況に入ってしまった。第二次世界大恐慌だといふ人もある。全米第一の企業が倒産かと聞かされれば、事実として世界恐慌なのだろう。日本も例外ではない。

この時、教会に何が出来るか、何をしなければならぬかが問われている。

第一次世界大恐慌は1929年に山場があった。年表には「失業者続出」と書き込まれている。会社・企業の倒産は相次ぎ、地方の出先銀行の倉庫は、敗戦の頃まで立っていた。人々の恨みをかきながら。その頃、教会は全国的な伝道を展開したのである。各教派が協力して「全国強化総

り、宣教の門戸が開かれ、先人たちの遺見により、無教派主義による日本基督教団が創立された。この理想は水く覆われていたが、神の奇しき摂理により、一九四一年、日本基督教団の結成と共に当初の祈りが実現されるに至った。かくて、

われらは一つの信仰告白の下に、未だ曾てなかった主キリストに在る一致を見ることとなった。(後略)。

50年前の教団はこのように希望を語っていたのである。しかしその後の教団の歴史は、この宣言に語られている「一致」が幻想だった

左から、宮本(担当職員)、内藤総幹事、愛澤総務幹事、小出望、藤掛、小林、北紀吉、金刺英雄、の各委員

歴史を導く神を信じて

われわれは、歴史を導く神を信じている。旧約からの生きた困難な歴史を主の元にあつたと信じている。第二次世界大恐慌の時に教会が大不況で倒産が相次ぐなか、伝道に次ぐ伝道が行われたことにならなければならない。祈りつつ励まねばならない。

小林貞夫 伝道150年記念行事準備委員会委員長

100周年時の、この盛会ぶり、150周年も是非に

お知らせ
 「教団新報」、今号4673・74号を合併号とし、4675号は5月30日に発行致します。
 本号は、特別号として発行、各教区総会にお届けします。乞うご購読。
 総幹事 内藤留幸



山形県の酒田教会は、1898年6月15日が創立記念日。年齢早見表を見た

ことを証明しています。この「宣言」に語られている自己理解が厳しく問われてきたとも言えます。今私たちが問うのは、教会とは何か、何を信じ、何を言へ伝えるのか、という根本問題をめぐる深刻な不一致、混乱があります。その中で教勢は伸びず、高齢化は進み、十年後の存続を危ぶまれる教会も多数あるのが現実です。

「伝道150年」は、単なるお祝いやお祭りではありません。得ません。今私たちが、教会は何によってこそ一致するのか、を問われているのです。真の一致は、人間の間の調停や妥協によって生まれるものではありません。「聖なる公同の教会」に連なる代々の教会が信じ、告白してきた信仰にか、教会一致の土台はありませぬ。日本基督教団は、常議員会の決議により、伝道150年記念行事の主題

を「キリストこそ我が救い」と定め、コリントの信徒への手紙(第一章18〜25節)を聖句として掲げました。救われる者には神の力である「十字架の言葉」に堅く立ち、「十字架につけられたキリスト」をこそ宣べ伝える、という原点に立ち返ること、言い換えれば、日本基督教団の信仰と教会のあり方を、公同教会に連なるものとして明確にすることこそ、伝道150年を迎えた私たちが今なすべきことではないでしょうか。

150年の歴史、また教団としてのこの50年の歩みには、感謝すべきことも多くあると同時に、反省すべきこと、欠けも沢山あります。それらをしっかりと反省し、他の諸教会とも一致協力しつつ、荒野のようにな今日の日本の現実の中に伝道の新たな道を切り開いていきたいと願います。(横浜指路教会牧師)

動員運動」を二年間にわたって実施した。さらに賀川豊彦が主唱する「神の国運動」も連動し、各地で信仰が盛り上がった。二年間の受洗者は3万人だったと報告されている。

日本伝道150年という節目を主が与えてくださった以上、必ず80年前のように祝福が与えられることを信じる。

既に表からはみ出していた。今年110歳を迎えることになる。何か110年の記念行事を挙げるのだろうか、一昔前に一度訪ねただけの教会なのに、妙に気になって、多年の無沙汰を顧みず、突然電話した。

酒田教会・佐々木茂牧師は、かつて88周年の記念誌を発行した。酒田と言えば庄内米、八八は勿論米に因んだもの。100というキリがよい数字よりも、88の方が、酒田では特別の意味を持つと言った。一方で、100周年にも、110周年にも、記念誌を発行した。

▼数字が意味を持つのではない。しかし、意味を持たせることが出来る。149年も151年も特別の数字だ。もしその年に、懸命の伝道がなされるならば。▼教団年鑑で各教会の創立記念日を調べ始めたら、眠れなくなった。礼拝出席一桁の教会が、140年の伝道史を持っている例もある。

宣教師会議開催

年に一度、家族を伴って一堂に会する機会

「多くの肢体、ひとつの体」

機構改革に伴う不安を払拭

教団の宣教を共に担うために、全国のミッションスクールや教区に派遣されている宣教師たちが年に一度家族を伴って一堂に会す宣教師会議。自主企画でプログラムを準備し、お互いの情報交換や母国語で心おきなく交わる中で心身共にリフレッシュできるこの会議は長年、宣教師協力協議会(COC)の下で開かれてきました。

今年3月26日(木)～28日(土)に箱根のスコーク150年記念の年、多くの先達の宣教師たちが日本人のために注いだ愛の労苦に対して感謝の念ひとしおのこの頃です。

今年3月26日(木)～28日(土)に箱根のスコーク150年記念の年、多くの先達の宣教師たちが日本人のために注いだ愛の労苦に対して感謝の念ひとしおのこの頃です。

今年3月26日(木)～28日(土)に箱根のスコーク150年記念の年、多くの先達の宣教師たちが日本人のために注いだ愛の労苦に対して感謝の念ひとしおのこの頃です。

今年3月26日(木)～28日(土)に箱根のスコーク150年記念の年、多くの先達の宣教師たちが日本人のために注いだ愛の労苦に対して感謝の念ひとしおのこの頃です。

今年3月26日(木)～28日(土)に箱根のスコーク150年記念の年、多くの先達の宣教師たちが日本人のために注いだ愛の労苦に対して感謝の念ひとしおのこの頃です。

箱根の関所跡で…
どんなまがきも宣教の業を阻むことはできない

今年3月26日(木)～28日(土)に箱根のスコーク150年記念の年、多くの先達の宣教師たちが日本人のために注いだ愛の労苦に対して感謝の念ひとしおのこの頃です。

レブラザ・ホテルを会場に「多くの肢体、ひとつの体」のテーマで約60名が参加して開催されました。かつては300～400人ほどが集まったそうだが、近年世界の教会の変化と共に日本へ派遣される宣教師数が激減し、2005年1月に日北米宣教師協力会(JNAC)が解散。続いて一昨年にはCOCが解散し、教団がその業務を継承したため、同会議が世界宣教師会議主催となった。今回のプログラムはネイスン・ブラウネル宣教師(団及びフェリス学院)をリーダーとする横浜の宣教師たち(テウオラ・ウミビクフリアン、ジョセフィー・キムラ)が企画にあたりました。

26日の夕食に合わせて北は北海道、南は九州から、宣教師たちが集まりました。今回特筆すべきことは、アジア学院で奉仕するアジアやアフリカの宣教師たちの参加により、今までの欧米一色から、多様でエキシメニカルな宣教師の集いへと変化していることです。またアメリカ改革派教会から多数派遣されて、地方のミッションスクールで英語を教えている青年宣教師たちの爽やかな姿が印象的

夕食後は開会礼拝に続いて、ケヴィン・タイセン宣教師(鎮西学院)のスピーチがあり、ご自身の学校での取り組みが報告されました。終戦当時、長崎の爆心地近くに学校があり、多くの生徒たちが被爆し、亡くなった学院の歴史と共に、学院の現在の状況や平和への取り組み(平和宣言)について知ることが出来て感謝でした。

二日目も礼拝から始まり、午前中のほとんどの時間を使って教団の現状(内藤留幸総幹事、世界宣教師委員会で)の機構改革と役割(木下宣世世界宣教師委員、委員長、秋山徹常任委員)の紹介がありました。

二日目も礼拝から始まり、午前中のほとんどの時間を使って教団の現状(内藤留幸総幹事、世界宣教師委員会で)の機構改革と役割(木下宣世世界宣教師委員、委員長、秋山徹常任委員)の紹介がありました。

二日目も礼拝から始まり、午前中のほとんどの時間を使って教団の現状(内藤留幸総幹事、世界宣教師委員会で)の機構改革と役割(木下宣世世界宣教師委員、委員長、秋山徹常任委員)の紹介がありました。

二日目も礼拝から始まり、午前中のほとんどの時間を使って教団の現状(内藤留幸総幹事、世界宣教師委員会で)の機構改革と役割(木下宣世世界宣教師委員、委員長、秋山徹常任委員)の紹介がありました。

二日目も礼拝から始まり、午前中のほとんどの時間を使って教団の現状(内藤留幸総幹事、世界宣教師委員会で)の機構改革と役割(木下宣世世界宣教師委員、委員長、秋山徹常任委員)の紹介がありました。

会場のホテルで、参加 60 名
かつては 300 ～ 400 人が一堂に会した

てきました。

続いて任期を終え退任するクレイ恵子、トーマス・ヴァンデルバーク、ニコラス・ボーイズ各宣教師に内藤総幹事より感謝状と記念品が手渡され、また2008年度に着任した新任宣教師方の紹介がありました。

更に昨年4月以降に逝去されたドナ、エルマー、スギルマン、タンブリッジ各退任宣教師を偲び感謝の祈りがささげられました。

昨年4月の教団の退任宣教師感謝ツアーでお目にかかった直後に天に召されたドナ宣教師が、車椅子で点滴片手にクレアモントでの感謝会に出席して下さったお姿が目につきました。

宣教師の皆様は日本への強い愛によって支えられてきた日本の伝道を思うと感謝の思いひとしおです。

午後5時からは箱根の関所やロープウェイへご案内し、お互いの交わりを更に深める機会となりました。夜はポール・シュー十戸宣教師(青山学院)のスピーチで日常生活の中で直面する課題の中で一つとなることについて語られました。

最終日は子どもたちも一緒に輪になって閉会礼拝を捧げ、また聖餐にも与り一つとなった恵みを感じました。それぞれが心の内にいたいた言葉をそれぞれの現場に持ち帰ろうと約束し、箱根の山を後にしました。

最終日は子どもたちも一緒に輪になって閉会礼拝を捧げ、また聖餐にも与り一つとなった恵みを感じました。それぞれが心の内にいたいた言葉をそれぞれの現場に持ち帰ろうと約束し、箱根の山を後にしました。

最終日は子どもたちも一緒に輪になって閉会礼拝を捧げ、また聖餐にも与り一つとなった恵みを感じました。それぞれが心の内にいたいた言葉をそれぞれの現場に持ち帰ろうと約束し、箱根の山を後にしました。

最終日は子どもたちも一緒に輪になって閉会礼拝を捧げ、また聖餐にも与り一つとなった恵みを感じました。それぞれが心の内にいたいた言葉をそれぞれの現場に持ち帰ろうと約束し、箱根の山を後にしました。

「さらに西へ」を標語に

西東京教区挙げての開拓伝道

注文や付加的な要望はあったが、全員が原案に賛成する意見を述べ、かくして、立川駅にほど近いレンタスペースで、主日夕礼拝を持ち、「さらに西へ」(開拓伝道準備委員会活動報告書の表題)の伝道を推進し、教区全体で取り組む方針が可決された。

教区のホームページには、今、次のように掲載されている。

「西東京」に属する牧師・信徒たちは今の日本の状況を心と魂の危機と感じ、3年ほどの準備の後、昨年9月から立川駅南口の一角で「立川夕礼拝」を立ち上げることになりました。日曜の夕べ、讃美と祈りの中で、この地域の牧師たちが聖書の告げるメッセージをお届けします。

以来、既に半年以上、毎週欠かさず、日曜夕礼拝が捧げられている。司式・説教・奏楽等の奉仕は、積極的に参加する諸教会の回り持ち。写真にあるように、説教者を送り出す教会から、応援団?が大挙して礼拝を共にすることが多い。

聖歌隊などが奉仕することも。これにより、初めて夕礼拝を訪れた者も、普通の教会と同じような雰囲気

のうちに集会を体験出来る。出席者がぐくなく、立川南駅の先で右へ曲がる。都民銀行といなげやの間を左に曲がって、うなぎの隣、地下1階ホールです。…ちよつとややこしい。特に、大きな看板を上げることもできないから、目立たない。

会場を借りている3時間以外は、教会の者は誰もいない。会場は音楽、特に録音のためのホール、音響抜群という利点もあるが、群と利点もあるが、いろんな点で、教会の機能を果たすことは難しい。

全教区を挙げての、祈り、具体的な支えなしにはとても叶わない。さて、集会案内には、立川駅の南口より徒歩5分」と記されている

立川駅の南口より徒歩5分」と記されている

毎日曜日、伝道の志をもって、礼拝に集う!

岩田昌路牧師と共に参加した粕江教会員

立川駅の南口より徒歩5分」と記されている

(新報編集部報)

主の教会に仕える教師を送り出す

新委員会組織、倉橋康夫委員長

教師検定

第36総会期の第1回教師検定委員会が、3月26日(木)～27日(金)、教団会議室において、委員7名が出席して行われた。2009年春季教師検定試験は、準備の都合上、前総会期からの第1回教師検定委員会が担当したの

で、今回が新委員会による最初の委員会となった。最初に各委員が自己紹介を行い、今期は3名の委員が交代して新しい委員を迎えたいと、まず、教団と教師検定規則等に基づき、当委員会の任務について確認した。その上で、委員の互選により、委員長には都合三期目となる倉橋康夫委員、書記には一期目となる東野尚志委員が選出された。

カリフォルニア サンノゼ

ウェスレー合同メソジスト教会

西之園路子宣教師派遣式

教師検定委員会
後列左から、武田真治、渡部和使、勝山(担当幹事)、中川(担当職員)、前列左から、田中真希子、小峰擁、倉橋、東野、菅根信彦

委員関係の諸報告を確認し、前委員会からの申し送り事項についての確認と検討を行った。神学校での学びを経ずに受験する人たちのため、神学の基礎的な科目については受験者の所属教会牧師に指導していただくよう要請すること、またそのような受験者へのガイダンスを丁寧に行うこと、従来いわゆる「Cコースの手引書」として出されていたものを、改めて、「教師検定試験受験者の手引き」として

3月15日、西之園路子宣教師派遣式が佐々木美知夫教団副議長司式、小出望静岡草深教会牧師説教で同教会において執り行われた。西之園宣教師は米国カリフォルニア州サンノゼのウェスレー合同メソジスト教会日語部に松下道成宣教師の後任として派遣される。同氏は東京神学大学を卒業し、清水教会、浦原教会での牧会経験約20年積んだ。

同教会は昨年創立113年を迎えた、北米日系人教会のなかでも長い歴史のある教会であり、第2次世界大戦の厳しい体験も経て今日を迎えている。サンフランシスコから南へ車で約1時間、シリコンバレーを抜けたところにサンノゼは位置している。同教会には英語部と日語部があり、英語部礼拝には360人ほど、日語部礼拝には40人ほどが集う。英語部と日語部の宣教協力体制は磐石であり、世界各地の日系人教会

の厳しい現状の中では恵まれた環境にある。教団はサンフランシスコ・ベイエリアでは同教会以外に、パイン合同メソジスト教会、エルセリートのシカモア組合教会にも宣教師を派遣している。ベイエリアでの日系人伝道がこの3教会の共同伝道によって推進されることが期待されている。小出牧師は西之園宣教師

を支えることで、私たちがすべての人に福音を宣べ伝えよという命令に従い、全世界とつながることができると説いた。同宣教師の支援が当日に正式に立ち上がり、活動が開始された。西之園師はこの派遣を神

の召しと確信し、新しいことを学びつつ伝道牧会に全力を尽くしたいと決意を力強く語った。教団派遣宣教師は、9カ国に21名、西之園宣教師の派遣で女性9名、43%となった。

正教師登録
飯川雅孝、嶋田恵悟、田中牧子、細川美英江(2009・2・21受按) 教師異動
山口信愛 辞(志石川宣道) 辞(担)石川まなか 橋本 辞(代)伊藤忠彦 辞(担)下村 優 辞(兼)志小泉 健 就(兼)志小泉 健 東京神学大学 就(神)小泉 健 沼津大岡 就(代)宮本義弘 軽井沢 就(担)山田富穂 敬和学園高校 辞(教)畑うらら 教師隠退
尾崎風伍 休職より復帰 須田 拓 伝道所廃止 波止浜 教会所在地名変更 七里 さいたま市見沼区東門前 295-113

神奈川 教団財政の見直しを 岩崎 隆

長引く構造的不況、これに追討ちをかけた金融危機。いま日本社会は破滅的である。非正規労働者と呼ばれる人たちの命の危機が現実の問題にもなっている。炊き出しで空腹を満たす人たちがいる。また自死者の数が年間3万人を超える年も続いている。どこを向いても暗くて悲しい話ばかりだ。日本の教会も、この不況の影響をまともに受けている。また教会員の高齢化が進んで教会財政は逼

迫し窮乏している。教会員の収入減が起これば教会や教区は、その連鎖の中に閉じ込められる。神奈川教区も御多分に洩れずの状態である。例えば数年前から教区内の教職互助の募金目標は達成できずに、その存続さえも危ぶまれている。その教職の信徒一人一人の献金で賄っている。その教職の諸経費、特に管理職的な立場にいる人たちの人件費は、全国の教会の現状に合わせてもらえないだろうか。乏しき、貧しさを分け合って欲しい。

教区 コラム

一方、教師謝儀が減らされたり

3月30日(月) 米国カリフォルニア州エルセリートに所属する。1904年、米国における排日感情高まる中で日本人留学生4人が核となり創立された。同宣教師は戦前・戦中に差別・偏見の辛酸を嘗めた日系人の歴史に触れ、世界の平和を考えたい、と抱負を語った。

シカモア教会はサンフランシスコ・ベイエリアに位置する。北方にはワインで有名なナパバレーがある、と派遣後の茶話会で話題になった。しかし南方のシリコンバレーでは、昨今の

経済不況により帰国する邦人が少なくないため、環境は厳しい。ざりとして派遣式は説教にあつた通り、伝道は数でなく質。参加した霊南坂教会員は異口同音に同宣教師の説教がとても印象に残っていると励ましの言葉を述べた。

サンフランシスコ近郊で教団派遣宣教師は3名体制となっている。今年3月15日に派遣式を行ったばかりの西之園路子宣教師(サンノゼ)、3年前に赴任した藤浪敦子宣教師(サンフランシスコ)が同僚となる。海外での牧会とは異なる困難な課題も多いが、ここでは互いに支えあう体制が恵みとして与えられている。

佐原光児宣教師は同志社大学神学部を卒業後、これまで東京教区霊南坂教会の

消息

村島 宏氏(隠退教師)

昨年11月18日、逝去。73歳。東京都に生まれる。1959年、東京聖書学校卒業後、上井教会に赴任。'97年まで同教会を牧会し、その後'98年から2002年まで大牟田西山町教会牧師を務め、隠退した。遺族は息の義也さん。

事務局報

正教師登録

飯川雅孝、嶋田恵悟、田中牧子、細川美英江(2009・2・21受按) 教師異動
山口信愛 辞(志石川宣道) 辞(担)石川まなか 橋本 辞(代)伊藤忠彦 辞(担)下村 優 辞(兼)志小泉 健 就(兼)志小泉 健 東京神学大学 就(神)小泉 健 沼津大岡 就(代)宮本義弘 軽井沢 就(担)山田富穂 敬和学園高校 辞(教)畑うらら 教師隠退
尾崎風伍 休職より復帰 須田 拓 伝道所廃止 波止浜 教会所在地名変更 七里 さいたま市見沼区東門前 295-113

シカモア組合教会 佐原光児宣教師派遣式

カリフォルニア エルセリート

3月30日(月) 米国カリフォルニア州エルセリートに所属する。1904年、米国における排日感情高まる中で日本人留学生4人が核となり創立された。同宣教師は戦前・戦中に差別・偏見の辛酸を嘗めた日系人の歴史に触れ、世界の平和を考えたい、と抱負を語った。

シカモア教会はサンフランシスコ・ベイエリアに位置する。北方にはワインで有名なナパバレーがある、と派遣後の茶話会で話題になった。しかし南方のシリコンバレーでは、昨今の

経済不況により帰国する邦人が少なくないため、環境は厳しい。ざりとして派遣式は説教にあつた通り、伝道は数でなく質。参加した霊南坂教会員は異口同音に同宣教師の説教がとても印象に残っていると励ましの言葉を述べた。

佐原光児宣教師は同志社大学神学部を卒業後、これまで東京教区霊南坂教会の

